芸能「カリオキ」の発展

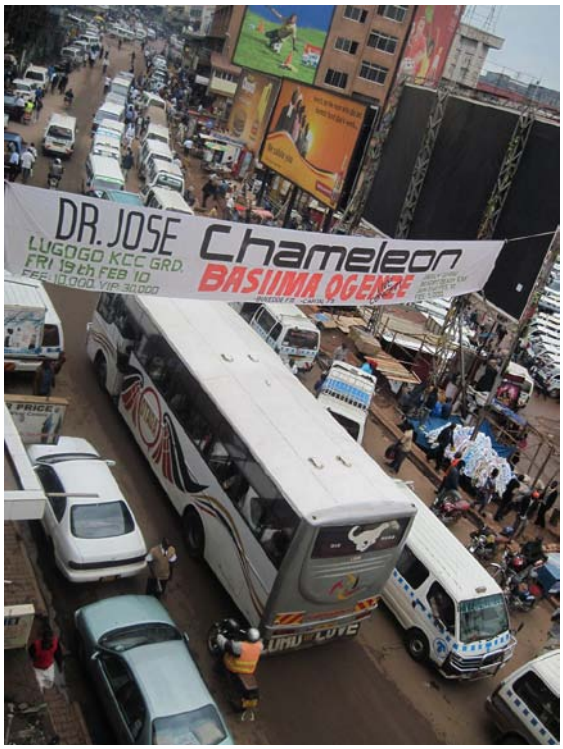
平成 18 年　入学
派遣先国：ウガンダ共和国
大門　碧

キーワード：カンパラ，パフォーマンス，ポピュラー音楽，盛り場，若者

対象とする問題の概要

ウガンダの首都カンパラでは，「カリオキ」と呼ばれるショーが，レストランやバーで毎晩実施されている。音楽にあわせて披露されるさまざまな演目は，三つに大別できる。ひとつは，「マイム」と呼ばれ，電源の入っていないマイクを持って口と身体を動かし歌を歌うことを表現する「口パク」のパフォーマンスである。主に地元の言語を使ったポピュラー音楽が使用される。そして西洋を中心とした音楽にあわせて踊る「ダンス」，さらに「マイム」と似ているが，面白い動きや展開を盛り込んで芝居をすることに重点をおいた「コメディ」である。

「ウガンダの歌手は，カリオキ出身」という話がカンパラで流布している。確かに 1996 年にカンパラに持ち込まれたカリオキの語源であるカラオケをとおして，パトロンを得て歌手になる者も出てきている。しかし，本研究で取り上げるカリオキには，実際に歌うという要素がない。別の発展過程を考える必要があるだろう。



人気歌手のライブ広告が見える

研究目的

本研究は，カリオキが現在のパフォーマンス形態に至る過程を明らかにすることを目的とした。報告者は，これまでの調査で，カリオキを担うのは 10 代から 20 代にかけての若者たち 10 数名を中心に構成されるグループであること，そのグループ内のメンバーは帰属民族も含め多様な生活背景をもつこと，メンバー構成は頻繁に変化することを明らかにしてきた。これらの特徴が，現在のカリオキのパフォーマンス内容とどのようにかかわっているのかを考察したい。

主な調査方法は，初期のグループの立ち上げに関わった人物へのインタビュー，カリオキが開始されたと想定される 1998 年から隔年ごとに 5 年分の日刊紙 Monitor からカリオキにかかわりのある記事を収集し，分析することである。

カラオケがウガンダにやってきた直後の記事

Feeling like a music star

American Top 40

CASINO Paradise

PAPA WEMBA

フィールドワークから得られた知見について

ここでは，特にパフォーマンス内容に注目して，現在のパフォーマンス形式にいたるまでの，カリオキの発展経路の一端を報告する。「カリオキの父」として名高いグループは，同じ学校の卒業生たちが 1999 年に結成し，活動を開始している。当初の演目内容は，アメリカなどの西洋の音楽を使ってオリジナルの歌手に似せたダンスを見せることが中心で，本人たちはダンサーと呼ばれた。大学の寮祭などのイベントに出演して人気を獲得した。バーなどの盛り場でカリオキが実施されるようになったとされるのは，2000 年である。最初にカリオキを実施したバーでは，そこが主催したダンス大会で才能を見せた若者たちがグループを組織し公演した。その後，メンバーの若者たちが知り合いを連れてきてメンバーが増えていった。初期のメンバーにはカンパラ人口の半数を占める民族ガンダの出身者以外にも，詳細な民族名は不明だがコンゴ，ルワンダ，アラブ諸国など，国境を越えた異なる背景をもつ者たちが集まっていた。当時の演目は，西洋の音楽にあわせたダンスか，ウガンダ国内や隣国の民族舞踊であった。2001 年には，青年への啓蒙活動をおこなう NGO が，パフォーマンスに長けた若者たちを集めてグループをつくり，学校などで教育活動を始めた。このグループは，娯楽要素を取り入れて教育するために，芝居をしてその途中に歌を流し「ロパク」をする方法を考案した。2003 年，盛り場で西洋の音楽を使ってダンスのみをおこなっていた若者がこのグループに入ると，このグループは盛り場での公演も始めた。同時に，それまで西洋の音楽に夢中だった若者たちには興味のなかった，地元の音楽でのマイムを実施するようになった。これは幅広い世代に受け容れられるようにと，当時のパフォーマー（10 代の若者たち）より上の世代のマネージャーが提案した。そして，この地元の音楽を使ったマイムや芝居は，それまで西洋音楽のダンスのみに集中していたほかのグループにも取り入れられるようになった。

「マイム」をする若者，幕の後ろは楽屋

「コメディ」をする若者たち

今後の展開・反省点

劇団エイボニーズの公演風景，役者の数名はカリオキ出身者である

今回の調査では，西洋の音楽やダンスに興味のある学生たちが，多様な民族背景を超えて集まるきっかけをもったこと，そしてその集団の流動的なメンバー構成が，現在のカリオキのパフォーマンスの成立にかかわっていることがわかった。カリオキは，最初は若者たちの娯楽から始まったが，場所や演目内容の変化とともに，ビジネスの要素が取り込まれていったという流れがあることが考えられた。また，今回の調査では，カリオキ出身の若者たちがほかの芸能分野 （演劇，音楽，伝統舞踊など）で活躍していることもわかった。

今後，さらに詳細にカリオキの成立に関して社会背景も考慮して若者たちの経験を解析するとともに，カリオキ出身の若者たちが新たな芸能を展開していった先で，どのような人間関係をつくり，パフォーマンスを組み立てているのかを観察し，カリオキという芸能が勃興した背景にあるカンパラの若者たちの特徴を探究したい。